

# 万国外科学会最優秀発表賞

## 高橋 正浩

2011年8月28日から9月1日の5日間にわたり、第44回 国際外科週間 [ISW 2011, ISS/SIC：万国外科学会] が横浜で開催されました。本学会は世界5大陸の都市で2年に一度だけ開催される国際外科大会であり、日本で開催されるのは1977年の京都開催以来34年ぶりとなりました。世界68ヶ国から総参加者約1800名が集まり熱心な討論が展開されました。この度、私のVideo presentation がBest Free Paper Presentation (最優秀発表賞)、Lloyd M. Nyhus Free Paper Prize 2011の栄誉に預かることとなりましたので受賞のご報告をさせて頂きます。演題は「Laparoscopy-assisted living donor hepatectomy」で、当科で行っている低侵襲ドナー肝



切除術の有用性を発表しました。生体肝移植は健常人であるドナーからの臓器提供がなければ成り立たない医療です。生体ドナーの身体的、精神的負担を軽減し、かつ安全な手術を提供できる本術式は、その手術術式は無論、小切開による術後創部痛の改善、入院期間の短縮や早期社会復帰、術後QOLの向上に非常に有用であることが高く評価されました。本大会賞のLloyd M. Nyhus Prizeの由来はアメリカ、イリノイ大学の高名な外科医で、消化器外科・ヘルニア外科の先駆者であるProfessor Lloyd M. Nyhusからきています。この誉れ高き賞を受賞できましたのは、ご指導頂きました若林教授をはじめ、諸先生方、パラメディカルスタッフの皆様のご協力のおかげです。深く感謝申し上げます。（学会ホームページ：<http://www.iss-sic.com/index.php?id=166>）